

# 5. 新しい道空間づくりの4つの視点

地域住民や企業と行政の協働により

- ① 道の担う役割の復古・再生
- ② 地域の資産の活用
- ③ 新たな・多様な価値の創造
- ④ 使われ方の負の遺産の清算

## ① 道の担う役割の復古・再生



交流の場、生活空間としての道の機能を復古・再生

## ② 地域の資産の活用



“人”や“地域に眠る観光資源”等を有効に活用

## ③ 新たな・多様な価値の創造



オープンカフェ・ビューポイントの設置等により楽しめる道を創造

## ④ 使われ方の負の遺産の清算



看板や電柱等の負の遺産を清算し、美しい沿道景観を再生

4つの視点

## 6. 日本型のシーニックバイウェイの方針

### 基本方針

自然、歴史、文化、風景などをテーマとして、「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目指した、美しい道路空間の形成

### 舞台と利用者

- ・沿道も含め幅広く
- ・地方部、都市部等の全ての地域を対象に
- ・「既に美しい道」に加え「美しくなりうる道」を包含
- ・自動車、自転車、歩行の3つのモードに対応

### 連携

- ・官民の協働などさまざまな主体の連携
- ・祭りやイベントなど沿道のさまざまな活動との連携

# 7. 日本型のシーニックバイウェイがもたらす変化

## 迎える地域

地域（地域住民、地元企業、地元事業者、自治体 等）

- ◆地域のストーリーを持ち、広く発信できる
- ◆地域を再生できる
- ◆地域を活性化できる
- ◆地域の誇りを育てる
- ◆地域をブランド化できる
- ◆企業活動を展開する場が生まれる
- ◆もてなす気持ちと喜びが生まれる
- ◆社会貢献の場が広がる

人の交流を支えるみちへ  
地域と呼吸し合うみちへ

## 訪れる人

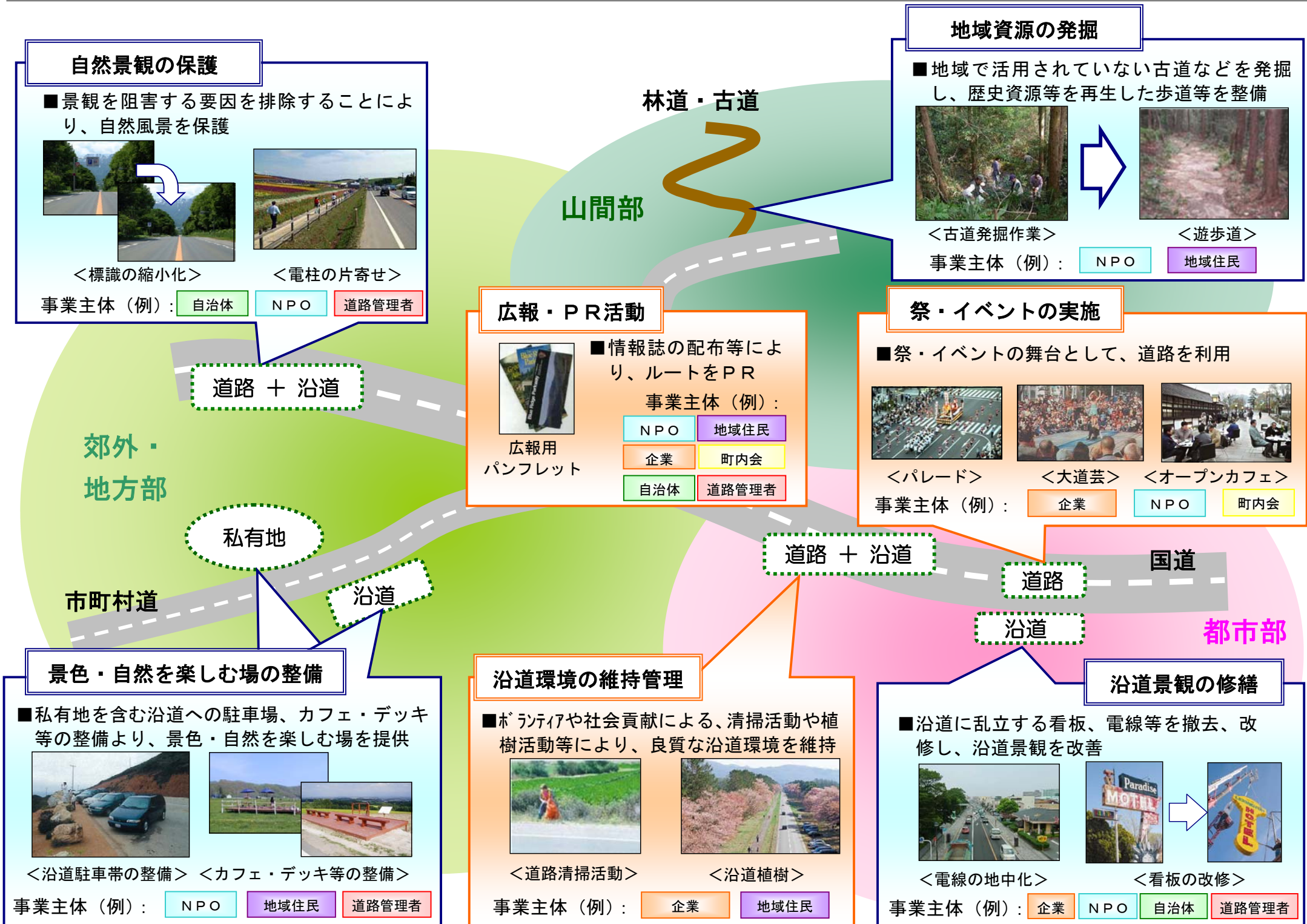
道路利用者  
（来訪者、通過者 等）

- ◆新しい発見、感動の喜びを味わえる
- ◆地域に活気をもたらす
- ◆感動を伝え、広げる人になる

道路管理者（国・自治体等）

- ◆地域と道が一体となった舞台づくり
- ◆道の使われ方の負の遺産の清算
- ◆効率的な道路管理 等

# 8. 日本型のシーニックバイウェイの活動例



# 参考：交流のための舞台づくり

## 走り抜ける道から交流を生む道へ

### 招き・もてなす人

- 美しく味わいのある景観
- 継承されてきた伝統と文化
- 土地ならではの味
- 物産、商業、産業
- もてなす心

- 地域の誇り
- もてなす喜び
- 地域の活性化

もてなし

感動

道を通じた交流

喜び

感謝

### 訪れ・楽しむ人

- 様々なシーンでサービスを体験
- 新しい道のよさを体験
- 感動、喜びを得る

- 新しい楽しみ、価値観を知る
- 消費意識の増大
- もてなしへの感謝

伝える

訪れていない人

道が“招く人”と“訪れる人”の交流プラットフォームに

